

東日本大震災と



グッドデザイン賞

2011–2021

The Great East Japan Earthquake

and Good Design Awards 2011–2021:

復興と新しい  
生活のための  
デザイン

Designs for Reconstruction

and New Life

flick  
studio

## ロングライフデザイン賞 2012

### 浅はち／サラダボール／洋鉢

ブナコ株式会社〔受賞時：ブナコ漆器製造株式会社〕



BUNACO CAFE。西目屋工場に併設されているカフェ。ブナコの照明やテーブルウェアが使われている \*

2012 年度グッドデザイン・ロングライフデザイン賞：青森ブナを使った食器群  
〔浅はち [017-32] / サラダボール [018-11] / 洋鉢 [017-13] 〕



## 天然のブナ材から生み出す モダンデザインが地域を変える

薄くテープ状にしたブナ材を何層にも巻き重ねて成形する「ブナコ（BUNACO）」の製品。独自の製法で完成する柔らかなフォルムは、食器やトレイ、ティッシュボックスといった日用品を中心に、スツールからランプシェードにまで展開されている。日本一の蓄積量を誇る青森県のブナの木を有効活用するために確立した特殊技術と、手仕事でなければできない工程を経て生み出されるものばかりだ。ブナコ株式会社として 1963 年の創立以来、ブナの薄板材の加工から自社で一貫して生産している。ブナは本来、弾力性がありしなやかだが水分が多く、通常の乾燥技術では建材や木工品への使用に適さない。そこで、ブナ材をかつら剥きの要領で薄くし、テープ状にカットすることで乾燥を早めて加工しやすくする方法が考案された。例えばスギの木からつくる「曲げわっぱ」は薄くした 1 枚の板を湿らせて湾曲させるが、ブナコではブナ材を乾燥した状態でコイル状に巻き付けてから成形するため、従来の木工品にはない自由な曲線をデザインできるようになり、機能性の幅も広がった。

ほぼすべての工程を手作業で、ブナ材の柔軟性などの違いを確認しながら製品化を進めることができるものも特徴。機械化されていないからこそ、新しい設計の試作スピードも早まり、多品種・少量生産の体制によって、さまざまなデザインに挑戦している。1966 年に青森県内の企業で初め

てグッドデザイン商品に選定されると、以降も受賞を重ね、2012 年には「ロングライフデザイン賞」に選ばれた。最小の部材によるエコロジーな製法を 40 年以上継続し、広く認知されている点でも高く評価されている証だろう。



上から、サラダボール、洋鉢、浅はち



製品によって幅の違うテープ状のブナ材を、芯材を中心に巻いていく。巻き上げてプレート状になったものを、湯呑みを使い押し出して成形する。成形後、段差のできた表面を研磨して仕上げる \*

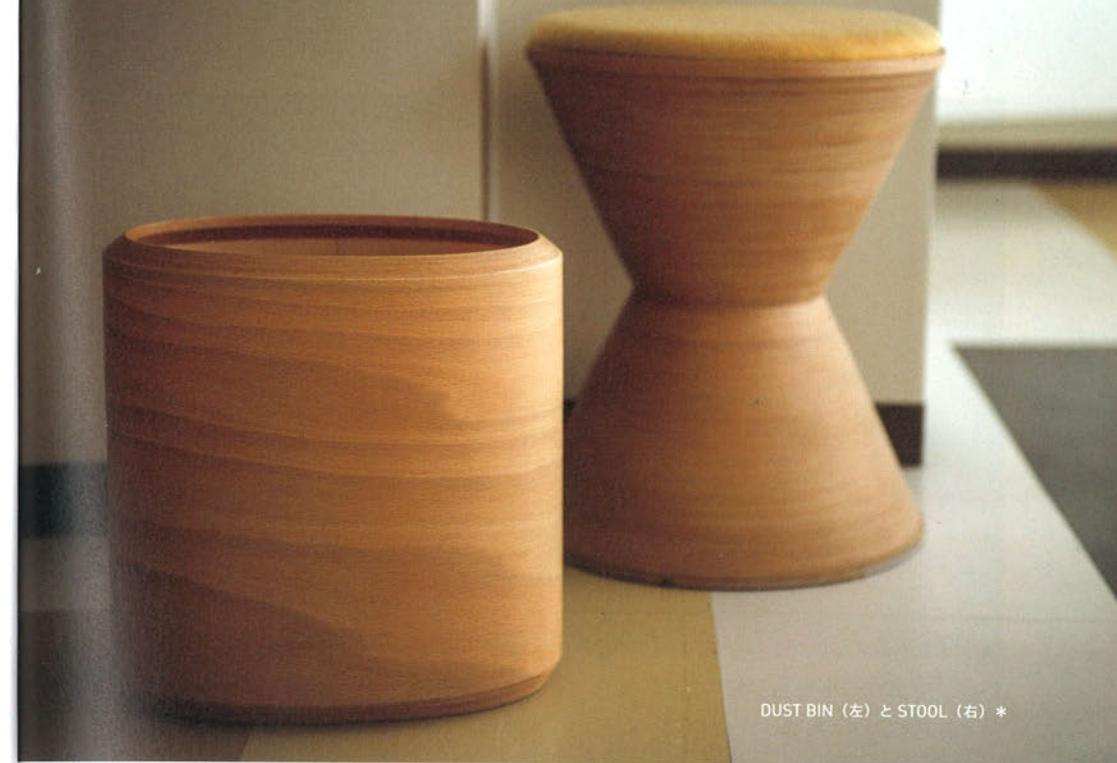
そして2017年には、新たな拠点をオープンした。ブナコの工場がある青森県弘前市に隣り合う、西目屋村で廃校舎になった小学校を改修して構えた体験型の工房だ。ブナコという製品の存在を知つてもらうと同時に、青森のブナの木に触れる機会にしたいという強い思いで実現した。代表取締役・倉田昌直氏は、「ものづくりを通じて、青森で一番小さな村を産業観光化できる」と可能性を見出している。西

目屋村の村長から、村に人を呼び込む取り組みを模索していると聞き、小学校をリノベーションして活用する計画を立てたという。単に土地を利用するのではなく、村の誇りになるような場所にしたいと考えてきた。

そのためにはまず、村の人々を説得しなければならない。そこで倉田氏は、デザイナーであり伝統技術ディレクターとして活躍する立川裕大氏を招いて講演会を開催した。



ほとんどが手作業でつくられるブナコ製品。工房では各工程を分業して進める様子を見学できる \*



DUST BIN (左) と STOOL (右) \*



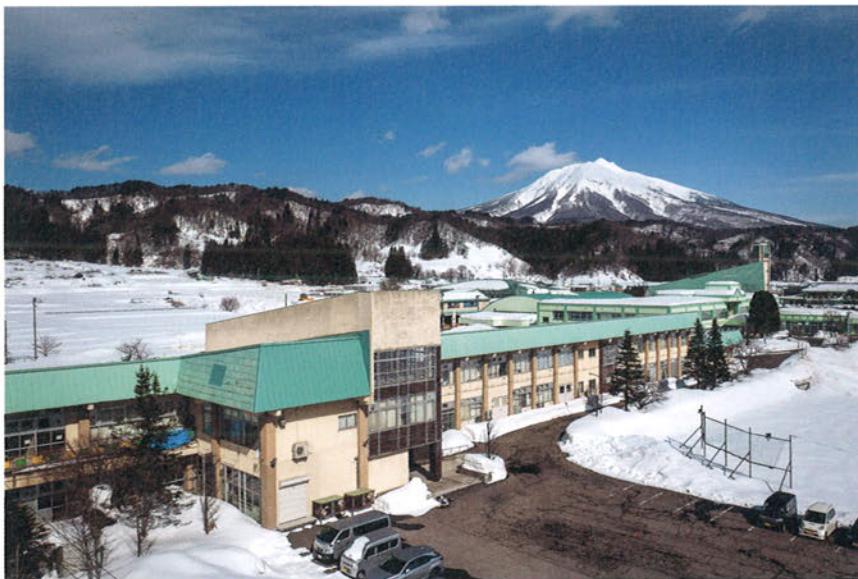
サラダボール（左）、浅はち（中央）、洋鉢（右）\*

「日本のものづくりは変化している。10年前は地元を離れた都市部で得る評価が重視されたが、これからは違う。外から人が訪れる地域の魅力を発信するのがデザインの役割。ブナコが村へ入ってくることで、地域に住んでいる人の気持ちを変えるデザインが実現できるだろう——」。そう力説する立川氏の熱意に助けられ、小学校を丸ごと、ブナコが借用することになった。工房の1階部分には、誰もが利用できるカフェがある。ブナコの製造方法にそっくりなバウムクーヘンや、西目屋村の特産品である目屋豆腐を使ったチーズケーキなど、近隣の森で採取するハチミツだけを使ったオリジナルメニューを考案した。春には、小学校の卒業生を招待して工場見学とカフェでの卒業パーティーを開くなど

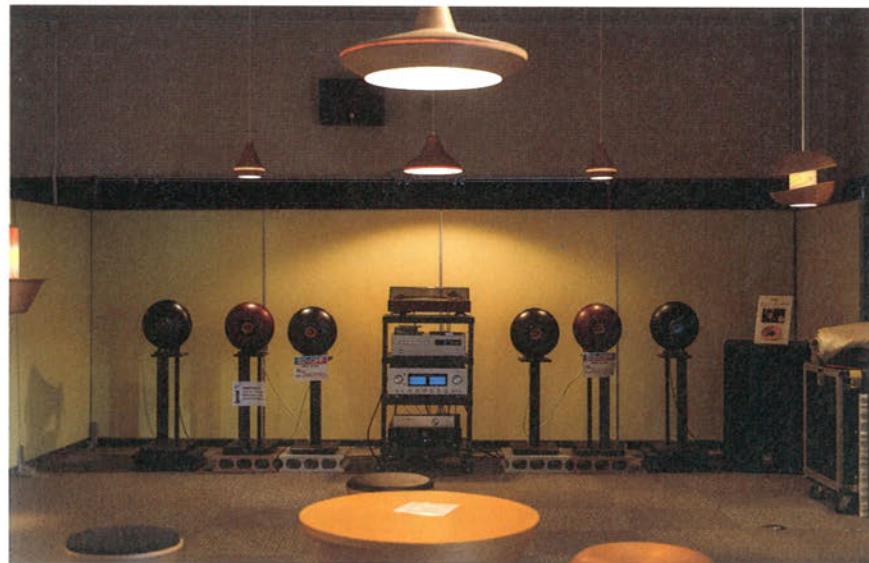
地域に開かれた場所になっている。工房とカフェで働く地元の若者、子育て世代も多い。

さらに、JR 東日本が運行する観光列車「TRAIN SUITE 四季島」(P.142) のコースにも指定された。クルーズを楽しむ途中で西目屋村に下車し、ブナコで製作を体験してもらって後日完成品を届けるというプランが4年前から継続中だ。ブナコの工房は製品を売り出す一方で、村の存在を知らせるきっかけにも結びついている。そこで暮らす人々が誇りをもつ土地へと、確実に変わりつつあるのだ。

国内での試みと並行して、ブナコはパリで開催される国際見本市「メゾン・エ・オブジェ」に10年前から出展してきた。そこでは完成品を披露してはいるが、新しいデ



ブナコ西目屋工場。統廃合された小学校を体験型工房にリノベーションした \*



工房にはブナコのスピーカーを体験できる試聴室も設けてある。ここではブナコのコンセプトの1つである音と光によるくつきの空間が体感できる \*

ザインを取り入れたり、海外で活躍するデザイナーと新たにコラボレーションしたりするチャンスを掴むこともよくある。1点ずつ手作業で製造するため、デザイナーが構想するかたちも CAD 図面さえあればすぐに試作できるのが強み。パリで出会ったデザイナーたちは実際に青森を訪問し、

新製品を開発している。活用されずにいたブナを使ったものづくりに始まり、青森の風土と地域の隠れた魅力に接する場まで創出する。ロングライフデザインに安住しない取り組みは、まだまだ続く。【高橋美礼】



倉田昌直／ブナコ株式会社 代表取締役社長  
1954年青森県青森市（旧浪岡町）生まれ。1980年にブナコ漆器製造株式会社に入社、代表取締役専務就任。2013年にブナコ漆器製造株式会社よりブナコ株式会社へ社名変更。現在に至る。同社の代表の他に、株式会社富士清ほりうち代表取締役社長、有限会社プレス取締役、アップルウェーブ株式会社取締役、公益社団法人弘前市物産協会常務理事、弘前商工会議所議員を勤める。\*